

男性学の視点から

男女がともに生きやすい社会を考える

イクメンという言葉が社会に定着しても、なかなか**男性**の家事・育児参加が進みません。現実としては、相変わらず**男性**の生き方は仕事中心です。その一方で、かつてよりも**女性**が社会に進出するようになりました。家事や育児、それに介護、さらには仕事と、**女性**ばかりが一人で何役もこなしています。**男性**が変わらなければ、**女性**は疲弊していくばかりです。「**男も女も、仕事も家庭も**」。それが実現できる社会を作るには、どうすればいいのでしょうか。**男性学**の視点から、みなさんと一緒に考えていきます。



講師プロフィール

- ◎田中俊之 博士(社会学)
- ◎1975年、東京都生まれ。大正大学心理社会学部准教授
- ◎男性学を主な研究分野とする。
- ◎著書 『男性学の新展開』青弓社、『男が辛いよー絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA、『〈40 男〉はなぜ嫌われるか』イースト新書、『男が働かない、いいじゃないか!』講談社プラスα新書、小島慶子×田中俊之『不自由な男たち——その生きづらさは、どこから来るのか』祥伝社
- ◎日本では“男”であることと“働く”ということとの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らしている

男が働かない、
いいじゃないか!

日時: **2017年11月19日(日) 14:00~15:30**

会場:岡山大学津島キャンパス 文・法・経済学部講義棟 20 番講義室

対象:岡山大学生にかぎらず ご関心のある方はどなたでも

参加費:無料(申し込み不要・直接会場へ)

お問い合わせ先:齋藤圭介(岡山大学文学部准教授) Mail: saito@okayama-u.ac.jp